

## 令和元年度第2回安城市スポーツ推進審議会 議事録

日 時	令和2年2月21日（金）午後1時30分～午後3時
場 所	安城市体育館 3階 第4会議室
出席委員	野村富雄委員、四ツ井初美委員、内山博子委員、近藤邦子委員、 加藤浩委員、石川恭委員、小森義史委員、藤野奈緒子委員、園田直哉委員
欠席委員	井上智統委員
事務局出席者	教育長（杉山）、生涯学習部長（近藤）、スポーツ課長（名倉）、スポーツ 課長補佐（市川）、施設管理係長（岩井）、スポーツ振興係主事（小木曾）
次 第	1 市民憲章唱和 2 あいさつ 3 議題 （1）第2次スポーツ振興計画に係る令和元年度事業実績（中間報告）について ア 個別事業の実績について イ 目標値の達成状況について （2）第2次スポーツ振興計画に係る令和2年度事業計画（案）について （3）第2次スポーツ振興計画の中間見直しについて

### 1 市民憲章唱和

### 2 あいさつ

杉山教育長、野村会長

### 3 議題

#### （1）第2次スポーツ振興計画に係る令和元年度事業実績（中間報告）について

##### ア 個別事業の実績について

【事務局説明】資料P1～4

##### 【質疑応答】

（野村委員）

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、これから予定している行事やイベントについて、安城市としての開催の可否は決まっているのか。

（スポーツ課長 名倉）

近隣市においても例えば名古屋ウィメンズマラソンは一般参加を取り止めとしているので、今後そういった状況を踏まえ検討していきたいが、不特定多数の人々が集まる大き

なイベントについては中止の方向。イベントの規模や参加者数を見極めながら判断していきたい。体育館（東祥アリーナ安城）でいうと、様々な団体が実施するものについては今のところその主催者に判断をしていただく形にしており、スポーツ課としては、手洗いうがいの励行などで感染拡大を防いでいただくようお願いをしていく。また、日々状況が変わってくるため、この1、2週間の間でその都度判断をさせていただくことになる。

（園田委員）

安城市で予定されている講座なども今のところ中止の方向か。

（スポーツ課長 名倉）

例えば、明日（2月22日土曜日）のスポーツ観戦推進事業について、その中で実施するクリニックについては事前申込を頂いているため申込者のみに対して実施するが、プロの方々による試合の観戦については申込者だけでなく誰もが自由に観戦できるようになっているため、不特定多数の方々の観戦を中止する方向で調整中である。

【全委員了承】

#### イ 目標値の達成状況について

【事務局説明】資料P 5～6

【質疑応答】

なし

【全委員了承】

### （2）第2次スポーツ振興計画に係る令和2年度課事業計画（案）について

【事務局説明】資料P 7、パワポ資料

【東京2020応援ソング「パプリカ」の歌とダンスの紹介】

【質疑応答】

（石川委員）

安城市では重点施策としてラジオ体操の普及啓発に取り組まれている中で、「おはよう！ふれあいラジオ体操会」などを毎年実施されている。資料1ページの平成30年度実績及び令和元年度実績で、1日最大8,614人が7,676人に、延べ42,737人が33,917人と減っているが、何か大きな理由があるのか。また、来年度も重点施策として取り組まれていく中で、今後そういった実績数値を増やすための方策は検討しているのか。

（スポーツ課長補佐 市川）

数値が減少していることについては、ここ数年の夏の熱中症というのが随分影響している。実施申請をする子ども会の数や、夏休み以外でも毎日実施する常設の会場が少し減り気味というのもある。その中でラジオ体操をさらに推進していくためにどんなことができるかというところで、一つ事例として、スポーツ推進委員さんの中に児童クラブの厚生員を担当されている方がおり、その方が夏休みに子どもを預かるときに、朝決まった時間にラジオ体操をやるから申請を出していいか聞かれたことがあった。そういった取り組みも

あるんだと教えられた事例であり、児童クラブでの過ごし方として今後もそのように取り組んでいただけるのであれば、積極的にPRをしていきたいと思っている。

(野村委員)

1回でもラジオ体操をやればカウントされるのか。

(スポーツ課長補佐 市川)

連続3日間で実施するという形で申請をしていただいている。実施団体にはラジオ体操カードとノートを配布している。

(藤野委員)

ラジオ体操の実績数値について、結局すくい上げられている数値というのが限定的なため、申請した団体が実施した数値しか反映されていない。例えば、静岡県ヤマハ発動機さんでは社内でオリジナルのストレッチ運動を導入し、工場で昼休みなど毎日決まった時間にやっているが、数値としてカウントするなら2万人規模の実績になる。安城市の庁舎内で昼休みなどにラジオ体操をやればそれも数値化しようと思えばできるわけで、数値の取り方次第ではと思うところもある。また、強制ではなくて自分がしたいときにするという環境づくりをしながら、それが数値に反映されるような企画があればより良いと思う。

(野村委員)

ラジオ体操を実施している企業はたくさんあるのではないか。そのため、数値としてはこの倍くらいあってもおかしくはないと感じる。

(内山委員)

老人会でグラウンドゴルフをするときに、昨年から準備体操としてラジオ体操を取り入れたところ、皆さんに喜んでいただいた。ずっと続けてほしいとの声もあったので、来年度以降も続けていきたい。

(石川委員)

市内の学校ではどの程度ラジオ体操に取り組まれているのか。

(近藤委員)

学校の中でも運動会などで準備体操としてラジオ体操を取り入れている学校は、以前より多くなっている。

(教育長 杉山)

何校か運動会に参加させていただいたが、行くところ全てラジオ体操をやっていた。以前は音楽に合わせてリズムカルに踊るようなものが定番となっていたが、この数年間、特にスポーツ課が打ち出してからは変わってきた。

(近藤委員)

ラジオ体操は取り組みやすいし、運動会の時に保護者の方々も一緒になってできる。誰でもわかるというメリットがある。

(スポーツ課長補佐 市川)

取り組みの一つとして、始めて2年経つが、新1年生に向けて5月頃にラジオ体操の教本を配布させていただいている。家庭の中でも教本を手にとって見ていただけると良いと思うし、配布は今後も続けていきたい。

【全委員了承】

(3) 第2次スポーツ振興計画の中間見直しについて

【事務局説明】資料P 8

【質疑応答】

(藤野委員)

市民アンケートについて、どのくらいの数量でどのような方々に対して実施するのか。  
(スポーツ課長補佐 市川)

大きく計画を策定するわけではないため、それを考慮しアンケート実施の計画を立てていくが、最初の計画策定時は3,000人を無作為抽出した。今回の中間見直しでは、特にオリパラ開催後のレガシーをどのように引き継いでいくか、皆さんの意識がどのように変わるかを含めてアンケートを実施するが、基本の部分は変えずに見直しを進めていきたいと考えている。

【全委員了承】

以上